投資と要求に合ったITプロジェクトの見極め方（4119115）

－企画・投資の価値を説明する全てのプロジェクトマネージャー 向け－
投資と要求に合ったITプロジェクトの見極め方

本コースの学習目標は、主に以下の４つを理解することです。
１）ビジネス戦略とＩＴ戦略のリンケージの重要性を理解し、実現する具体的な手法を習得する。
２）IT投資をベースに、成功とはどのように測定するのか、具体的方法を習得する。
３）IT活動の成果を超えて、市場・社会への変化の影響（インパクト）の測定方法を習得する。
４）プロジェクトの優先順位付け、プロジェクト撤退の客観的な説明方法を学ぶ。
５）プロジェクトの上に存在する上位フレームワークを理解し経営が要求する全体観を身に付ける。

開催日時	2020年2月19日(水) 10:00-18:00
カテゴリー	IS戦略策定・IS戦略評価・IS企画・IS企画評価　IS戦略実行マネジメント・プロジェクトマネジメント 専門スキル
講師	中谷英雄 氏 （株式会社ピーエム・アラインメント 取締役　ビジネスコンサルティング部長 ） PMI認定PMP 2013年 米国PMI最優秀教育プロバイダー認定 スクラムアライアンス認定スクラムマスター（CSM） プロダクトオーナー（CSPO） ＜略歴＞ １．BIPROGY（旧：日本ユニバック）（１９８３年～） ２．三井住友信託銀行（旧：三井信託銀行）（１９９０年～） ３．ピーエム・アラインメント（２００６年～現職） ・ 主に金融ＩＴ大規模プロジェクトのPMO支援に従事。 ・ その後大学院でデザインマネジメントを学び、社会課題の解決、金融商品の開発等でデザイン、アート、顧客体験等を活用。 ・現在、新事業創出、デザイン戦略、イノベーションとDX推進に関わる諸テーマを中心に、コンサルティング活動、教育活動を展開している。 ＜研究会活動＞ ・PM関連：PMIJ会員(アジャイルPM研究会会員、プログラムマネジメント研究会会員) ・イノベーション関連：JUAS（イノベーション研究会会員JIIP3） PMIJ会員(ソーシャルPM研究会) ・震災復興関連のNPO向けに、イノベーションプロセスの活用支援展開中 ＜PM関連書籍著＞ 監修 PMI 日本支部 「PMツールの実践的活用」プロジェクト 翻訳メンバー PMIプログラムマネジメント標準 第2版
参加費	ＪＵＡＳ会員/ITC：33,000円 一般：42,000円（１名様あたり　消費税込み、テキスト込み）【受講権利枚数1枚】
会場	一般社団法人日本情報システム・ユーザー協会（日本橋堀留町2丁目ビル2階）
対象	プロジェクトマネージャー、プロジェクトマネージャーの上級を目指す方、IT企画の方など 中級
開催形式	講義、グループ演習
定員	25名
取得ポイント	※ITC実践力ポイント対象のセミナーです。（2時間1ポイント）
ITCA認定時間	7

主な内容

成熟した投資価値の最適化を実施している企業は、そうでない企業に比べ、プロジェクトの目標を実現する確率は1.6倍、プロジェクトにおいて目標ROIを達成する確率は3倍である（ボストンコンサルティンググループの調査結果（2016年）より）と報告されています。

これからのIT部門は、競争力のある差別化システムを作るため、「QCD、SLAの達成」から、企業が継続して成長していくために立てられた「組織戦略と価値創造達成」に更に視点をあげ、どう実現すべきか戦術が問われています。そして更に、ビジネス戦略に沿ったIT戦略へのIT投資が、企業に更には社会・市場へどのような貢献・変化の影響を与えていくか、測定し明示することが求められています。

IT組織の現場で良く聞かれる話は、「皆が、残業をして良いことをやっているのは分かるが、ITの成果や変化が見えない」「自分達の活動（プロジェクト、サービス、ソリューション）が生み出した企業への貢献、市場への変化（インパクト）を説明できない」です。多くのIT組織が、「ビジネス戦略からIT戦略へのリンケージと成果・評価が見えない」「自分達のIT組織は何を達成しようとしているのか？」「活動の成功とはどのように定義、測定されるのか？」という問いに十分に答えられていません。

このセミナーでは、まず、提示されたビジョン・ミッション、戦略目標を解釈した上で、活動（プロジェクト、サービス、ソリューション）から生み出される成果、インパクトの関係性の説明、及び、測定指標の提示方法までを、枠組み（フレームワーク）を用いて、作成する方法を学びます。また、その価値提案を経営に説明する方法を習得して頂きます。また、参加者とのグ

ループ演習を通し、より理解を深めていただける構成になっています。

「IT組織の活動（プロジェクト、サービス、ソリューション）の成功とはどのように定義、測定されるのか？」「どうしたら、活動を止められるのか？」などプロジェクトマネージャー、その上級を目指す方、IT企画・開発・保守・運用の改革担当の方など必見の講座です。ぜひ、ご参加ご検討ください。

＜過去参加者の声＞
・経営に対する説明方法、フレームワークを学べ、非常に良い題材で実践的な内容だった。（製造業）
・実際にプロジェクトを決行するか、撤退するかの判断をすべき立場にあり、理論的で理解が深まった。（建設）
・事業環境が厳しい中、これまでのマインドのままではダメであるという考え方と、何をすべきか刺激をうけた（製造業）
・ワークショップを通じて理解が深まる仕組みになっており、実務に即役に立つ。（製薬）
・難しいテーマにもかかわらず、講師の説明が分りやすかった。（IT系）

プログラム

１章．社会を取り巻く環境の変化
（１）CSVは、新たなイノベーションと捉える
（２）社会的価値　VS　経済的価値
（３）ソーシャル・インパクト評価の重要性
（４）IT投資要求に対する経営の不満
（５）現状のQCD、SLAではビジネス貢献は測れない

２章．投資要求に合った価値連鎖の説明
（１）投資要求に対する説明に関する現状認識
（２）企業におけるインパクト測定の狙い
（３）インパクト創造サイクル
（４）インパクト測定計画作成手順
（５）インパクト測定計画　事例紹介
＜演習１＞

3章．インパクト測定計画を用いて、価値創出を説明する
（１）主要なインパクトを特定する
（２）一次インパクトを洗い出す
（３）二次インパクトを洗い出す
（４）ベネフィットマップを完成させる
（５）測定データ収集計画を作成する
（６）経営者に、価値提案を説明する

4章．選択と集中、投資価値の最適化方法を体得する
（１）ポートフォリオの基本的な考え方
（２）様々な優先順位付け方法の紹介
＜演習２＞
プロジェクトの優先順位付けの根拠を論理的に説明する
＜演習３＞
プロジェクト撤退の理由をステークホルダーに論理的に説明する

5章．ITポートフォリオ事例紹介

6章．ポートフォリオマネジメント（フレームワーク）の組織適応は変革が伴う

本セミナーで取り上げる事項

＜１章＞
・CSRからCSVへ
・企業が、社会的価値を追求する事の意義
・ソーシャル・インパクトとは？
・経済産業省の報告から日本の現実を読み解く
・46.9％の経営者は、IT投資に不満である
・経営上層部からの本質的な要請を理解する

＜２章＞
・価値ロジック検証の以下の要素の違いを理解
１）インプット（投入）
２）活動（プロジェクト、サービス）
３）アクトプット（結果）
４）アウトカム（成果）
５）インパクト
・ベネフィット
・ベネフィットマネジメント
・成功は、どのように測定するのか？
・インパクトを大きくするには、どうすれば良いのか？

＜３、4章＞
・投資価値最適化の重要性を理解
・ステークホルダーにプロジェクト優先順位付けの根拠を示す
・合理的手法のメリットと限界を理解する
・多くの選択肢にどう応えるか？
・投資委員会のメンバーと、経営的視点を体得する
・合理的手法を活用する価値を見出す
・何故、日本のプロジェクトは、中止が出来ないのか？
・徹底、中止の意思決定の考慮事項とは？

＜5章＞
・IT投資委員会を新設
・ITポートフォリオの実践、その他
＜6章＞
・何故、変革は失敗するのか？
・ポートフォリオマネジメントの推進にどう立ち向かうか？